

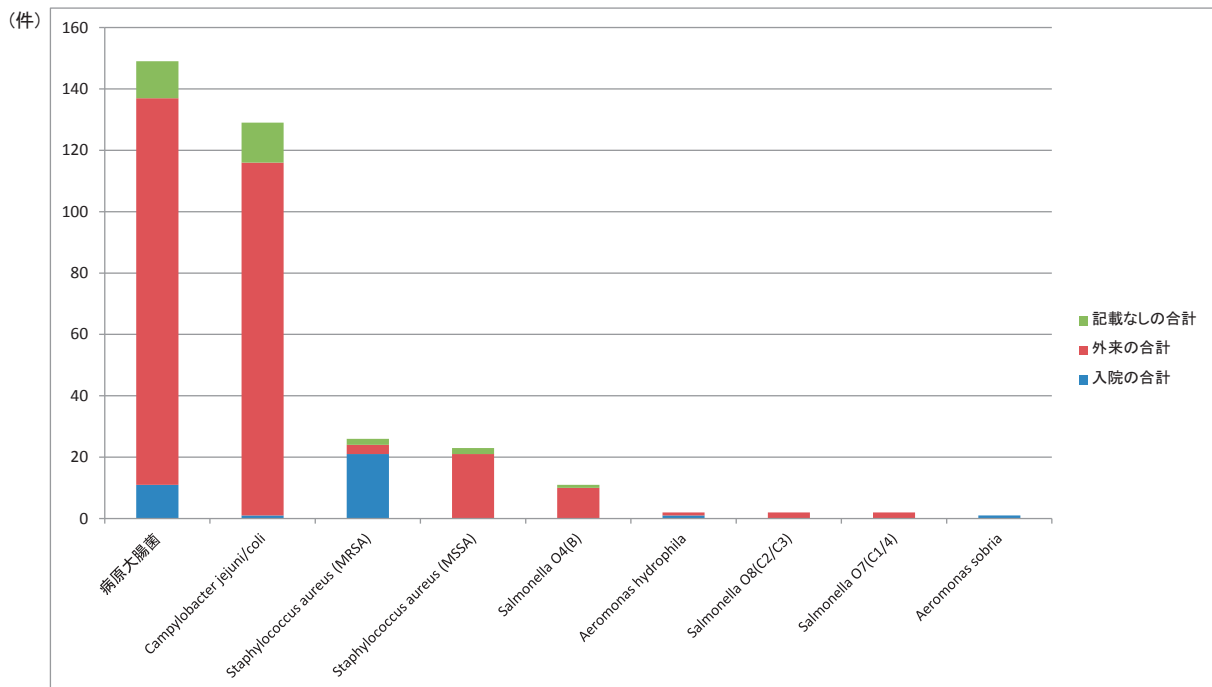
細菌検査統計報告 (当検査センター受託分)

診断・治療にお役に立てるよう当検査センターで受託した細菌検査における細菌検出状況を一部取り上げご報告いたします。全体の情報は当検査センターホームページに掲載されていますので、併せてご覧いただけたら幸いです。

今回は、【糞便】からの腸管病原菌の検出状況と、Campylobacter jejuni/coli について掲載いたします。

【細菌検出状況】

【糞便】細菌検出状況 2017年06月



Campylobacter jejuni/coli は、動物（ニワトリ、ウシ、ブタなど）の消化管内に常在し、加熱不十分な汚染食物を介してヒトに感染症を起こす人獣共通感染症です。食中毒病因物質の中で発生件数、患者数は上位になります。8～48時間の潜伏期間の後、腹痛、下痢、発熱（38℃台）を伴って発症し、通常は2～5日で自然に軽快する例が殆どですが、小児、高齢者では菌血症に進展することがあります。便性状は水様便ですが、血性や粘液性になることもあります。

一般的には補液などの対処療法で自然治癒することが殆どですが、重症例や症状がひどく腸管出血性大腸菌やサルモネラなどとの鑑別が困難な場合は、抗菌薬の投与を用います。Campylobacter はマクロライド系抗菌薬が第1選択薬となっていますが、近年マクロライド系に耐性の菌も出現しており問題となっています。

当検査センターホームページでは詳細な情報をご覧いただけます。<http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/>